

## 近鉄 その10 鮮魚列車

その昔、『新聞列車』とか『行商列車』とか『鮮魚列車』とか名前のついた列車があり、産業を流通させる機能を鉄道は担っていた時代がありました。荷物室のある車両を御存知の方も多いと存じますが、自動車によるモータリゼーションの波に押されて昨今は、その役割は低下してきています。

『京成電鉄の行商列車』はなくなり、通勤列車に変更されましたが、その1両部分だけを『行商車両』として痕跡をのこしているそうです。

ところがドッコイ!!!

近鉄は、今でも『鮮魚列車』を毎日定期列車として専用に使わせて関係者に役立てています。(8600系4両1編成ノミです)

その列車は。(通常の時刻表に載っていません)

宇治山田 6時11分発

伊勢中川 6時45分 (逆行の下り列車の時刻は未確認)

八 木 8時16分

鶴 橋 8時55分着

上本町 8時58分着 として運行されています。しかもこの列車は

急行列車扱いとし、運転時間を短くし、魚の鮮度維持に協力しています。行商されている多くの方は、鶴橋で下車されるとのことですから、鶴橋市場では、朝一番に伊勢湾で水揚げされた新鮮な魚が、朝9時過ぎには、市場に並べられて、売られていることでしょう。

専用列車ですから、伊勢漁業組合の許可証がなければ、乗車できません。

(一般乗客は利用できません)

また、車両は魚とか海の匂いが染み込んでいて一般用に転用はムツカシイとのこと。



方向字幕は『鮮魚』です。